

令和4年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- 人間尊重の精神に基づき、校訓「研学・実践・誠実」の下、真理を追究し、社会の変化に主体的に対応できる生きる力と自己教育力を培う。
- 創造力と実践力に富み、誠実で豊かな心を持って、たくましく生きる人間の育成を目指す。

2 学校の特徴

本校は定時制単位制単独高等学校として、高岡駅前ウイング・ウイング高岡のビル内にあり、富山県民生涯学習カレッジ高岡地区センターを併設した生涯学習機能を合わせもつ学校である。

設置学科は昼間制Ⅰ部に普通科、総合／情報ビジネス科、Ⅱ部に総合／情報ビジネス科、生活文化科、夜間制に普通科、国際教養科を有する。入学、卒業をはじめ、単位の認定は前期、後期の2期に分けて実施し、「働きながら学ぶ」「自ら計画したペースで学ぶ」等、時代の変化や個々のライフスタイルに柔軟に対応するようカリキュラムを編成している。通信科目、通級による指導、高卒程度認定試験、ボランティア活動、技能審査の成果等も単位として認定し、生徒の多様な学びを尊重している。少人数制によるきめ細かな指導も特徴的である。また、高校生と社会人が共に学ぶ「共学講座」の実施では、世代を越えた学び合いにより、先進的で効果的な教育を創出している。

3 学校の現状と課題

本校には不登校経験を持つ生徒、障害や困難を抱える生徒、外国籍の親を持つ生徒等、多様な生徒が学んでおり、経歴や価値観、学ぶ意欲にも違いが見られる。生徒一人一人の夢を実現させるべき学びの場として、学校全体のユニバーサルデザイン化、インクルーシブ教育のさらなる充実をはじめ、大学進学を目指す生徒への対応等、個に応じたキャリア教育を実践することが求められており、新学習指導要領の実施に向けた教育課程の工夫、学校組織の活性化、外部機関との有機的連携等を一層推進する必要がある。

- (1) 個々のレベルに応じ、学びに向かう力を養い、知識及び技能の習得を図り、思考力・判断力・表現力を育むために、校内外の研修によるスキルアップ、アクティブ・ラーニング型授業やICTを活用した授業の充実に努める。専門学科では学習に充実感を持たせる手段として、各種検定の合格率を高めるよう指導する。
- (2) 多様化する生徒の悩みや困りごとに対しては、SC・SSWによる教育相談の充実、児童相談所・警察など専門機関との連携等、学校を中心とした組織的な支援を的確・計画的に行う。必要に応じて個別の指導計画を作成し、職員間の共通理解を深め、学習指導や生徒指導に活用する。
- (3) 望ましい勤労観・職業観を養うため、入学当初から年次に応じてガイダンス等のキャリア教育や個別指導を組織的に行う。また、ポートフォリオを充実させ、生徒の進路に対する意識や意欲を高める。

4 学校教育計画

項目	目標・方針及び計画	
学習活動 重点 1 (教務部)	目標	・<u>単位修得率の向上（学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る）</u> ・<u>生徒の学習実態の把握</u>
	計画	・『学習・生活の手引き』の「授業の記録」の活用を図り、授業に参加することの意義を認識させる。 ・面接週間の充実を通して、生徒一人一人の学習歴、学力、興味・関心などを把握し、学習指導を推進する。また、履修指導を通して、生徒の授業に対する意欲を引き出し、主体的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。 ・生徒に意欲を持たせる授業が展開できるよう、生徒の実態をより正確に把握するとともに、互研授業を通して授業改善に取り組む。 ・生徒自身にも自らの学習時間・態度を見つめ直す機会として、「学習時間調査」を実施し、結果をフィードバックする。
学校生活 重点 2 (生徒指導部)	目標	・健康で安全な生活を送るため、<u>基本的生活習慣の確立</u>と心身の調和的発達を図る。 ・社会的責任や役割を自覚して行動ができるよう、協調性・<u>自己管理能力を育成</u>する。
	計画	・行動・身だしなみチェックを実施し、生徒自身に基本的生活習慣について考えさせる。 ・挨拶の励行と自らの行動や態度に責任を持たせる指導に取り組み、家庭や地域との連携を密にしながら<u>基本的な生活習慣の定着</u>を目指す。
学校生活 重点 2 (保健・教育相談部)	目標	・生徒が心身共に健康な学校生活を送ることができるよう、自分の健康について<u>主体的に考え、改善しようとする態度を育てる。</u> ・生徒の衛生意識や美化意識を高めることで、自ら環境美化に努める態度を育てる。 ・生徒の社会的な自立と自己実現を目指し、配慮を要する生徒について、教員間で共通理解を図ると共に、支援体制を整え、連携して適切な支援を行う。
	計画	・保健行事や健康教育、生徒保健委員会の活動等を通して、心身の健康について理解と関心を深める。 ・毎月1回「美化の日」を設定し、重点項目を決め、一斉清掃を実施する。 ・さまざまな困難を抱える生徒への適切な支援を行うために、教員同士の情報交換を密に行い、必要に応じて専門スタッフ（SCやSSW等）を交えての検討会を実施する。また、教育相談への理解を深めるために、教職員を対象とした研修会を開催する。 ・「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の活用を推進し、生徒の個々の教育的ニーズに応える特別支援教育の充実を図る。
進路支援 重点 3 (進路指導部)	目標	・生徒が社会的に自立することができるよう、<u>学校全体でキャリア教育の充実に取り組む。</u> ・「自己の在り方、生き方や働き方」を考えさせて、<u>自己実現の達成に向けて主体的に進路選択ができるように指導する。</u>
	計画	・1年次より目標を設定させ、生徒のキャリア発達に合わせた学習に取り組むように指導する。とくにキャリアパスポートにポートフォリオを積み重ねることで振り返りができるようにする。 ・保護者会等における情報交換で、保護者と学校との共通理解を深める。 ・職安・JST・CA間の連携を活用して、円滑な就労支援を行う。 ・職場見学会・インターンシップ・学校見学会・オープンキャンパス等への参加を促し、進路選択のミスマッチをなくす。 ・基礎学力を定着させるとともに学力向上の個別指導等を充実させる。 ・キャリアに関する授業や講話、先輩（卒業生）と語る会等を実施して進路意識の高揚に努める。

特別活動 重点 4 (特活部)	目標	・学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動、部活動を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、よりよい社会を築こうとする自主的、自立的な態度を育て、明るく健全な学校づくりを目指す。 ・ボランティア活動を通して地域社会との連携を深め、社会参加・社会貢献への意欲と関心を高める。
	計画	・学校行事、ホームルーム活動の活性化を図り、生徒が主体的・意欲的に参加できるよう工夫する。 ・自主的に活動する能力、態度の育成を図るため、行事の運営を工夫し、<u>生徒が積極的に各行事に関われることを目指す。</u> ・部活動を通して、充実感・達成感を体験させるとともに、年次の枠を超えた良好な人間関係の育成を目指す。 ・コロナ禍に配慮し、保育園や障害者施設への訪問、七夕祭りや高岡なべ祭りなど地域行事のボランティア活動を通して、自己肯定感の獲得と社会参画意識の向上に努める。
特別活動 重点 4 (図書部)	目標	・<u>生徒図書委員会の自主的な活動を推進</u>するため、生徒主体の研修を実施する。 ・学科、教科との連携、学習や研修に役立つ資料の充実を図る。
	計画	・<u>生徒図書委員の育成と生徒の自主的な図書館活動の推進</u>を図る。 ・市の図書館と連携し、読み聞かせボランティアを実施する。 ・生徒の自主的学習や教職員の研修のための図書館資料の整備と充実を図る。
検定取得 重点 5 (総合ビジネス科／情報ビジネス科)	目標	・ビジネスに関する専門的な知識と技術を習得して、その意義や役割についての理解を深め、ビジネス社会の発展に対応できる創造的な能力と実践的な態度を育てる。 ・体験的な学習を通して、ビジネスの諸活動を主体的・合理的に行う実践力と望ましい職業観・倫理観を養い、人間性豊かで社会の変化に適応できる人材を育成する。
	計画	・情報やビジネスに関する科目の基礎的・基本的な知識と技術の徹底を図る。そのために生徒の実態に応じた授業内容の創意工夫を図り、生徒の教科に対する興味・関心と学習能力を高める。 ・<u>自主的、自発的な学習態度の育成に努め、各種検定試験に積極的に取り組み、合格を目指す。</u> ・体験的な学習の機会を多く提供し、ビジネスの場面での実践的な対応力と多様なビジネス社会への適応力を育てる。 ・授業で学んだビジネスの知識や技術を、現実の社会や環境の変化に対応できる能力を育成し、各自の進路選択やキャリアアップに活かせるようキャリア教育の充実を図る。
検定取得 重点 5 (生活文化科)	目標	・生活産業における将来のスペシャリストとして必要な知識と技術を身につけさせる。
	計画	・家庭科の各科目において、体験的・実践的学習を通して、<u>基礎的・基本的な知識と技術を習得</u>させる。 ・生徒の実態に即した授業内容により、学習意欲を高め、<u>自発的・創造的に学習する態度を育てる</u>とともに課題解決能力や社会への適応力を身につけさせる。 ・<u>各種検定試験への合格を目指して</u>意欲的に取り組ませる。 ・家庭クラブ活動について主体的に企画・運営させ、積極的な参加を促す。

I C T (情報管理部)	目標	・ I C T機器を活用するための知識と技能を習得し、社会の情報化の進展に主体的に対応できる基本的な能力と態度を育てる。 ・ プライバシーや情報セキュリティに関する理解を深め、ネットワーク社会におけるモラルとマナーに対する責任を自覚し、情報化社会に参加する態度を育成する。 ・ ネットワークを利用して、学校の情報を積極的に発信する。
	計画	・ I C T機器の整備と更新を通じて充実と活用を図る。 ・ 情報モラルの意識を高め、情報セキュリティの理解に役立つ研修等を企画し、情報スキルの向上を図る。 ・ 情報設備や機器の適切な保守管理を行い、ネットワークの定期的な点検を実施して障害を防止し、安全なシステム運用を行う。 ・ システムやネットワークの障害発生時に迅速に対処して、トラブルを防止する。 ・ ホームページを活用し、学校の活動を外部に紹介する。
P T A (総務部)	目標	・ P T A活動に対する保護者の関心を喚起し、保護者の参加を促す。 ・ 生涯学習機関との連携を図る。
	計画	・ 保護者の関心にあわせた活動内容を設定し、総会やP T A活動への参加意欲を高める。 ・ 保護者と学校の情報共有の場としてP T A通信「志高だより」を活用する。 ・ 共学講座のスムーズな運営にあたる。
進路支援 (普通科)	目標	・ 基礎学力の定着を図るとともに、主体的・対話的な態度を育成する。 ・ 各年次や進路指導部と連携し、卒業までを見通した進路指導を行い、進路希望を実現させる。
	計画	・ 基本的な生活習慣や学習習慣を身につけられるよう学校生活を指導する。 ・ ボランティアや検定等などの諸活動に意欲的に挑戦させる。 ・ 生徒の実態に即した教材や補習指導を通して、進路実現に必要な力を養う。 ・ 生徒の進路希望を実現するため、各年次や進路指導部と連携し、各年次に即した進路ガイダスを行う。
学習活動 (国際教養科)	目標	・ 世界の国々の伝統や習慣を理解し、尊重する態度を育てるとともに、コミュニケーション能力を高め、グローバル社会に必要な基礎的素養を培う。
	計画	・ 国際化にふさわしい知識や教養を習得させるために、学校設定教科「国際」の授業内容や「国際教養講座」等の行事の充実を図る。 ・ 環日本海諸国の言語を第二外国語と位置づけ、その学習を通して各国の文化に対する理解を深めさせるとともに、日本社会について考える態度を育成する。 ・ 国際社会で活躍できるマナー・表現力・コミュニケーション能力の伸長を図る。 ・ 資格取得等に意欲的にチャレンジさせる。
学校生活 (1年次)	目標	・ 多様な生徒の個性や適性を見出すとともに、自律・自立的な態度を育成する。 ・ 自己理解を深め、進路意識を育みながら学力の向上を図る。
	計画	・ 面接や個別指導を通して生徒理解を深める。 ・ 身だしなみに気をつけ、高校生らしい品位の確立を図る。 ・ 基本的な生活習慣確立のため、生徒の出欠状況を逐次把握することで欠課や遅刻等の防止を図る。 ・ 基礎学力を身につけさせるとともに、進路意識を高める。 ・ 環境美化や交通安全への意識を育てる。 ・ 保護者、各分掌、関係機関との連携を密にして、生徒の実態把握に努める。

学校生活 (2年次)	目標	・中堅の年次としての自覚と責任を促し、自律・自立的な態度の育成と基本的な生活習慣及び学習習慣を養う。 ・生徒の個性・適性を見出し、自己理解を深めさせるとともに進路意識の向上を図る。
	計画	・高校生らしい品位・身だしなみの確立のため、生徒指導部と連携し定期的に頭髪服装指導を実施し、自覚を促す。 ・生徒の出席状況・学習状況を把握し、個別面接を通して、基本的な生活習慣や学習習慣を確立させる。 ・個別面接や家庭、関係機関との連携を通して、生徒理解を深め、個々の生徒に応じた指導を行い、生徒の自律・自立的態度を育成する。 ・進路ガイダンスやオープンキャンパス、就業体験等を利用して自己の適性や能力の理解を深めさせ、それに基づいて進路意識を高める。
進路支援 (3・4年次)	目標	・卒業年次としての自覚と責任を促し、自律・自立的な態度の育成を図る。 ・自己の進路目標に向かって努力し、実現する力を養う。
	計画	・高校生らしい品位・身だしなみの確立のため、生徒指導部と連携しながら定期的に頭髪服装指導を実施し、卒業年次としての自覚と責任を促す。 ・進路指導部と連携しながら、具体的な進路決定に向けて適切な進路情報を提供し、面接指導や補習指導などを通して一人一人に応じた細やかな指導を行う。 ・個別面接等を通して生徒理解に努め、進路実現に向けて保護者や関係各部との連携を密にする。 ・会社見学や学校説明会に、自覚を持って自律的態度で参加するように指導する。
学校生活 (夜間制)	目標	・生徒の社会的・職業的自立へ向けて、「人間力」「社会人基礎力」「就職基礎能力」「分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力」を高めていく。
	計画	・社会生活を送る上で必要な基礎的な学力を身につけさせる。 ・コミュニケーションの力を高め、人間関係形成の能力を向上させる。 ・課題対応能力として、課題の発見・分析を促し、適切な計画を立てて課題を処理・解決できる力を高める。 ・自己理解の促進、個別指導の充実により、適切な進路選択へ導く。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和4年度 志貴野高校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	・単位修得率の向上（学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る） ・生徒の学習実態の把握	
現状	・安易に授業を休む生徒が見受けられる。 ・学習意欲が低く、学習習慣が身につけていない生徒がみられる。 ・学力差が生じており、一斉授業が難しいことがある。	
達成目標	①単位修得率	②「学習時間調査」の実施
	90%以上	2回（前期1回、後期1回）
方策	・「学習・生活の手引き」（授業の記録）を生徒一人一人に記録させる。 ・生徒が自らの授業の記録を確認することによって、授業に参加することの意義を知る。 ・生徒が利用しやすい『受講ガイド』を作成し、履修指導に生かす。 ・生徒の学力、興味・関心などを把握し、授業に対する興味・関心を引き出す。そこから、生徒の主体的・対話的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。 ・生徒の実態を、より正確に把握するために面接や個別指導を充実する。	

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:どちらかという達成できていない D:ほとんど達成できなかった

令和4年度 志貴野高校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活	
重点課題	・基本的生活習慣の確立及び自己管理能力の育成 ・心身の健康の保持増進に主体的に取り組む力の育成	
現状	・ネットゲームやSNS、アルバイトなどにより朝起きられない生徒がいる。 ・自ら挨拶を交わすことのできる生徒が少ない。 ・発達障害のある生徒や不登校経験者など、生徒が多様化している。 ・心身の不調から、登校や授業への参加が困難になっている生徒が毎年みられる。 ・自らの生活を振り返り、健康な学校生活を送るために、主体的に改善しようとする意欲に乏しい様子がみられる。 ・心身の健康について、生徒が主体的に考えるための研修会や保健行事、ホームルーム活動等の活躍の場が必要である。	
達成目標	①学校生活アンケート	②心身の健康について考える特別活動（委員会、ホームルーム活動）や研修会の実施と参加生徒の健康に対する意識の向上
	挨拶・遅刻について 良好またはおおむね良好 70%以上	「意識が向上した」80%以上
方策	・毎月「行動・身だしなみ」の自己チェックを行い、前月と現在を比較し自己のあるべき姿について考えさせる。また、遅刻欠席が多い生徒に対して生活習慣を見直させる。 ・生徒校風委員の主体的な「あいさつ運動」を通して、挨拶の習慣を身につけさせる。 ・保護者等の協力を得ながら、安全なネットの利用や基本的生活習慣の確立、規範意識の向上を促す。 ・生徒の多様化と社会の実情に照らし合わせ、生徒の指導方法を工夫する。	

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:どちらかという達成できていない D:ほとんど達成できなかった

令和4年度 志貴野高校アクションプラン - 3 -		
重点項目	進路支援	
重点課題	・進路実現に向けて学校全体で支援する体制づくり ・キャリア発達に応じた進路支援と、主体的な進路選択・自己実現の達成	
現状	・読解力や表現力等に苦手意識を持っている生徒が少なからずいる。 ・各年次における生徒状況が異なるため、それぞれに応じた指導が必要である。 ・もともとは進学希望であるが家庭の事情等で就職希望への変更を強いられる生徒がいる。 ・進路選択でミスマッチになる生徒がいる。	
達成目標	①希望する進路の内定率の向上	②計画的・継続的なキャリア教育の実施
	進路決定率 90%以上	キャリアパスポートの活用調査
方策	・面接指導や保護者会等をとおして生徒や保護者等に的確なアドバイスを行い進路選択のミスマッチをなくすように努める。 ・基礎学力向上講座、一般常識コンクール、模擬試験・実力テスト等を計画的に実施することで、基礎学力を定着させ学習到達度を測る。 ・奨学金制度等の案内をこまめに発信することで進学希望者を支援する。	・ホームルーム活動での指導に加え、進路ガイダンス、適性検査、進路講話等を計画的に行うことで、主体的に進路を選択する力を育成するとともに進路意識の高揚を図る。 ・キャリアパスポートでポートフォリオを蓄積する習慣をつけさせることで、自己の目標に向かっていくかを振り返りながらキャリア形成を図る。

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:どちらかというと達成できていない D:ほとんど達成できなかった

令和4年度 志貴野高校アクションプラン - 4 -		
重点項目	特別活動	
重点課題	・学校行事、ホームルーム活動等における生徒の積極的な参加の促進 ・図書委員会活動の活性化と読書習慣の確立	
現状	・生徒会活動や学校行事には、ほとんどの生徒が積極的に参加しており、また募金活動においても協力的である。 ・コロナ禍のため、例年参加していたボランティア活動、保育園や障がい者施設での交流などはほとんど中止になり、参加できなかった。 ・図書委員会では中央図書館での読み聞かせボランティア、文化祭での展示、図書館だよりの編集を行っているが、参加者が特定の生徒に偏っている。また、図書館を利用する生徒も限られ、読書習慣が確立しているとは言えない。	
達成目標	①特別活動の企画や運営に積極的に関わった生徒の割合	②在籍生徒一人あたりの貸出冊数
	80%以上	0.5冊以上
方策	・生徒会を中心に、生徒の意見や要望を行事に積極的に取り入れ、参加意識を高める。 ・事後アンケートを実施し、各行事に対する生徒の積極的な関わり度や問題点を把握する。 ・積極的な関わり度が低かった生徒の声に耳を傾け、より多くの生徒が各行事に積極的に関わられるよう工夫する。 ・コロナ禍に配慮をしながらボランティア活動等の参加を促す。	・図書委員ミーティングを月1回開催し、生徒主体の研修を実施する。 ・新着図書PRポスターやポップを制作し、図書委員を中心に読書意欲を喚起する。 ・図書だよりの内容を充実させ、来館者の増加や読書意欲の喚起に努める。 ・ホームルーム活動の時間等を利用して読書指導を行い、図書室の利用を図る。 ・授業で学校図書館を利用することを通して、読書意欲を喚起し読書力を高める。

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:どちらかというと達成できていない D:ほとんど達成できなかった

令和4年度 志貴野高校アクションプラン - 5 -		
重点項目	専門教科学習活動の充実と、検定試験合格対策	
重点課題	総合ビジネス科／情報ビジネス科 ・専門教科の学習指導の充実と学力の定着を図るため、各種検定試験に対して効果的な対策を行い、受験率と合格率の向上を目指す。 生活文化科 ・主体的に学習に取り組む態度の育成や、生活産業に関連する基礎的な知識・技能の習得のため、被服、食物、保育、情報の各分野において各種検定試験に取り組ませ、合格を目指す。	
現状	総合ビジネス科／情報ビジネス科 ・過去3年間の検定合格率は60%前後で、特に3級の合格率が低下傾向である。 ・令和3年度の全体合格率は52.6%、3級合格率62.6%であった。 生活文化科 ・基礎学力が低く、生活に関する関心や問題意識が低い生徒がみられる。 ・生活経験が少ないため、生活に必要な知識や技術が身についていない生徒が多い。	
達成目標	①総合ビジネス科／情報ビジネス科	②生活文化科
	各検定試験合格率が受検者の65%以上 および3級の合格率70%	各種検定受験者の合格率 家庭科系（被服・食物・保育）90%以上 商業科系70%以上
方策	・生徒個々の理解に応じた指導や教材の活用を通じて、基本的な学習内容を確実に定着させ、更に発展的な学習内容への関心と意欲を高める。 ・関連する授業の充実に努め、学習効果の高い教材を活用し、家庭学習習慣の定着化を図る。	
	・生徒が取り組みやすい自主教材を工夫したり、過去問題等の事前学習などに取り組ませたりすることによって、各種検定への合格を目指す。 ・各科目における体験的・実践的学習により、生活に対する関心を持たせるとともに、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	

評価基準 A : :達成した B : :ほぼ達成した C: :どちらかというと達成できていない D: :ほとんど達成できなかった